

第3 1回宮崎県子ども・子育て支援会議発言要旨

- 1 開催日時 令和5年1月27日（金） 午後2時～午後3時40分
- 2 開催場所 県庁防災庁舎防76号室
- 3 出席者 いずもとせいいち いでみき おちあいひでみ かわはらくにお くらながしんいち ささきしじゅう のじりまさつぐ
伊豆元精一、井手三季、落合秀美、河原国男、倉永慎一、佐々木慈舟、野尻政嗣、
はらだかなこ やましたけいこ わたなべひさみ
原田佳菜子、山下恵子、渡邊寿美(以上五十音順。敬称略。)

4 議事等の概要

- (1) 「第2期みやざき子ども・子育て応援プラン」の中間見直しについて【資料1、参考資料】
- (2) 幼保連携型認定こども園の認可について【資料2・3、参考資料1・2】

【主なやりとり】

- (1) 「第2期みやざき子ども・子育て応援プラン」の中間見直しについて

資料1に基づき事務局から改定内容について説明があり、質疑応答等が行われた

(委員) パブリック・コメントを受けて、不適切な保育に関する内容を次期計画で盛り込んでいく旨説明があったが、関連して保育の質の向上を図るためにも職員の配置基準について取り組んでいく方向性を示してほしい。

(事務局) 国において少子化対策の打ち出しが予定されているところ、これまで国の財源が十分に確保できていないために措置されていない配置基準の改善に係る経費について、注視するとともに引き続き要望していきたい。

(委員) 配置基準に関連して、保育人材の確保が困難になりつつあるので、人材確保についても力を入れて取り組んでほしい。

(事務局) 既存事業で取り組んでいるところであるが、保育の職を希望する学生に対して、保育業界の仕事の魅力を発信していくことは重要であると考えている。

また、幼児教育に関する相談を受けられるような拠点機能の体制づくりも重要だと考えており、現在検討しているところ。

(委員) 保護者の立場からしても、最低限の配置基準の中で、子どもたちに肯定的に関わってもらえるか不安の感じるところで、その後の成長に大きな差が出てくるという話がある。

また、第2子以降の無償化など実施される自治体もあるので、子育てしやすい県として何か取り組めることがあれば進めてほしい。

(事務局) 第2子以降の無償化については、市町村の実態に応じて対応しているところだが、財源の問題で差が生じていることを憂慮しており、国の骨格を成す部分として要望していきたい。

(2) 幼保連携型認定こども園の認可について

資料2及び資料3に基づき事務局から説明があり、内容について質疑応答等が行われた。

(委員) 新規の幼保連携型認定こども園の認可に関し、各施設の基準適合状況については承知したが、県の子ども・子育て応援プランで示されている需給の考え方と照らして問題がないのかを伺いたい。

(事務局) 各施設が所在する市町村においても、地域事情が異なることから、それぞれの保育施設の受入状況等を踏まえ、供給過剰ではないということについては確認の上で判断している。

(委員) 幼保連携型認定こども園以外に認定こども園への移行が予定されているところはあるか。

(事務局) 保育所型認定こども園及び幼稚園型認定こども園への移行を希望している施設が7施設あり、審査手続を行っているところ。

(委員) 幼保連携型認定こども園の休止については、少子化の中で生き残りが始まっているものと考えられ、今後も生じていく可能性もある。幼児教育は環境が重要なので、園児や職員の転園等の対応について、実際に対応する市町村に配慮するよう促してほしい。

(委員) 幼保連携型認定こども園以外でも認可外保育施設で休園となると聞いているが、当該施設を利用する園児や職員への支援は市町村で行うことになるのか。

(事務局) 認可外施設についても、今年度末で4施設が閉園するという情報を把握している。当該施設についても適切に転園が行われるよう市町村に依頼しているところ。

以 上